

繋ぐを創る 世界を繋ぐ

世界中のモノづくりとネットワークを繋ぐ・創る“メーカー商社”

2024年3月期

第2四半期決算説明資料

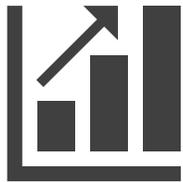
RIX リックス株式会社

証券コード：7525（東証プライム市場）

2023年11月28日（火）

Point 01

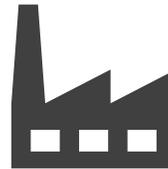
第2Qとしては 過去最高業績



過去最高で推移している第2Qの
業績の要因と通期の見込みについて
ご説明します。

Point 02

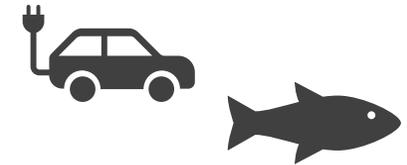
インドに新工場の 建設を決定



建設決定を発表したインド工場に
ついて、拠点展開の背景や、同国で
のビジョンについてご説明します。

Point 03

長期経営計画と 関連トピックについて



長期経営計画「LV2030」について、
軸の一つに掲げている成長分野での
取組み・トピックなどご説明します。

01

会社概要

02

2024年3月期 第2四半期決算

03

2024年3月期 通期業績予想

04

成長戦略（長期経営計画とトピック）

1

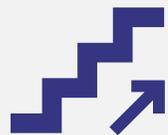
会社概要

経営理念

私たちは、常に未来を見つめ、販売・技術・製造・サービスの高度な融合をめざす「メーカー商社」として、世界の産業界に貢献します

創業

1907年



創業以来黒字経営

115年



国内拠点数

36か所



海外拠点数

11か所



売上高

452億円

2022年度 / 連結



従業員数

707人

2023年3月時点 / 連結



顧客数

2,900社



仕入先数

2,600社



4つの機能を融合させ、国内外の産業界大手企業の課題を解決



製品
商品
サービス
を提供

顧客数

約 **2,900** 社

鉄鋼



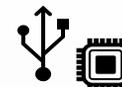
日本製鉄
JFEスチール

自動車



トヨタ自動車
デンソー

電子・半導体



キオクシア
ソニー

ゴム・タイヤ



ブリヂストン
横浜ゴム

工作機械



DMG森精機
ヤマザキマザック

高機能材



旭化成
カネカ

環境



日立造船
クボタ

紙パルプ



日本製紙
大王製紙

食品



サントリー
コカ・コーラ

02

2024年3月期 第2四半期決算

売上高・営業利益・経常利益・四半期純利益

過去最高更新

2024年3月期第2四半期 決算概要

- 3期連続の増収増益で、売上高・各利益とも過去最高を更新
- ボリュームが大きい「鉄鋼」と「自動車」が前期比+約15%の伸長で売上高をけん引
- 通期業績予想および配当予想を上方修正（10/24）

売上高

23,656百万円

+ 11.7%

営業利益

1,757百万円

+ 24.3%

経常利益

2,031百万円

+ 17.1%

四半期純利益

1,419百万円

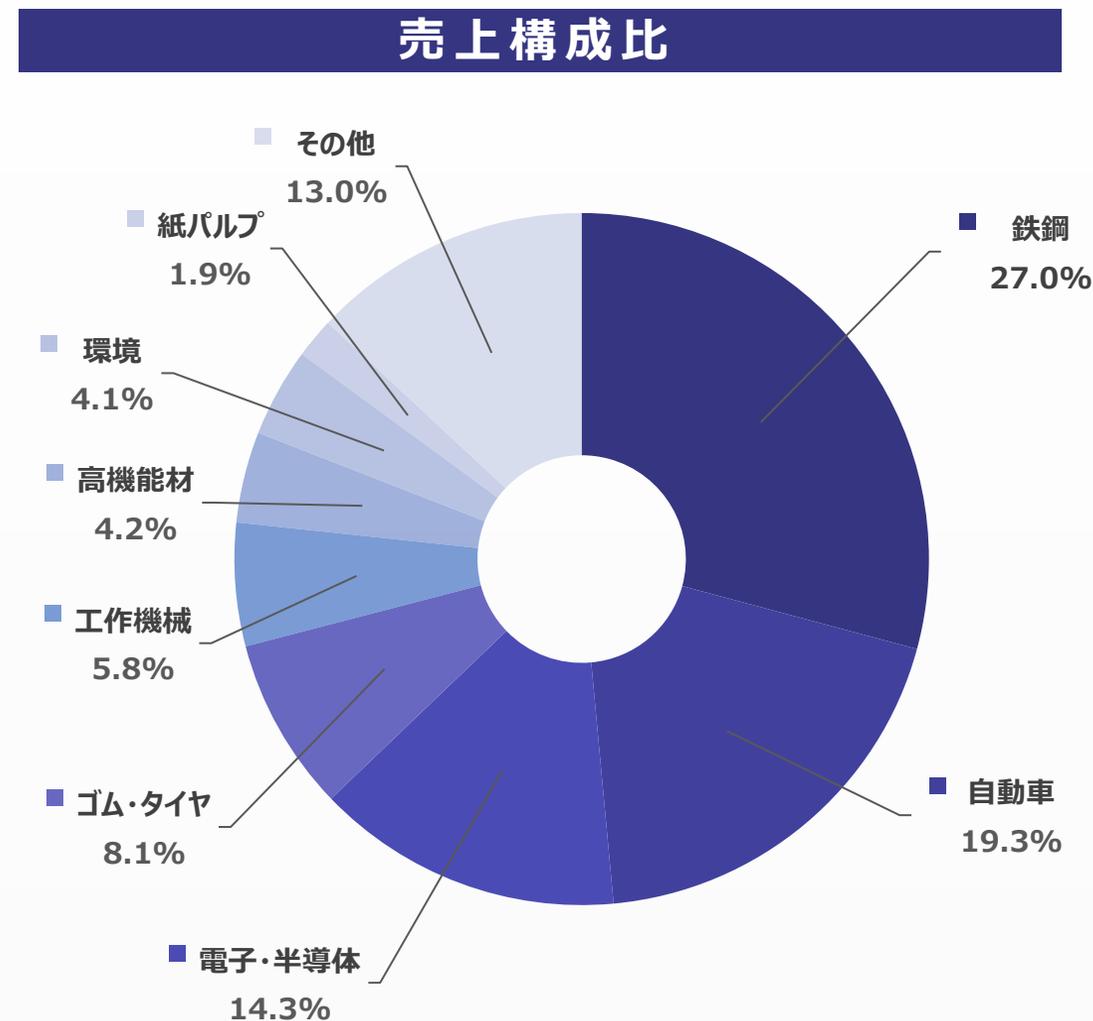
+ 20.7%

今期上期は期初予想を上回る順調な推移

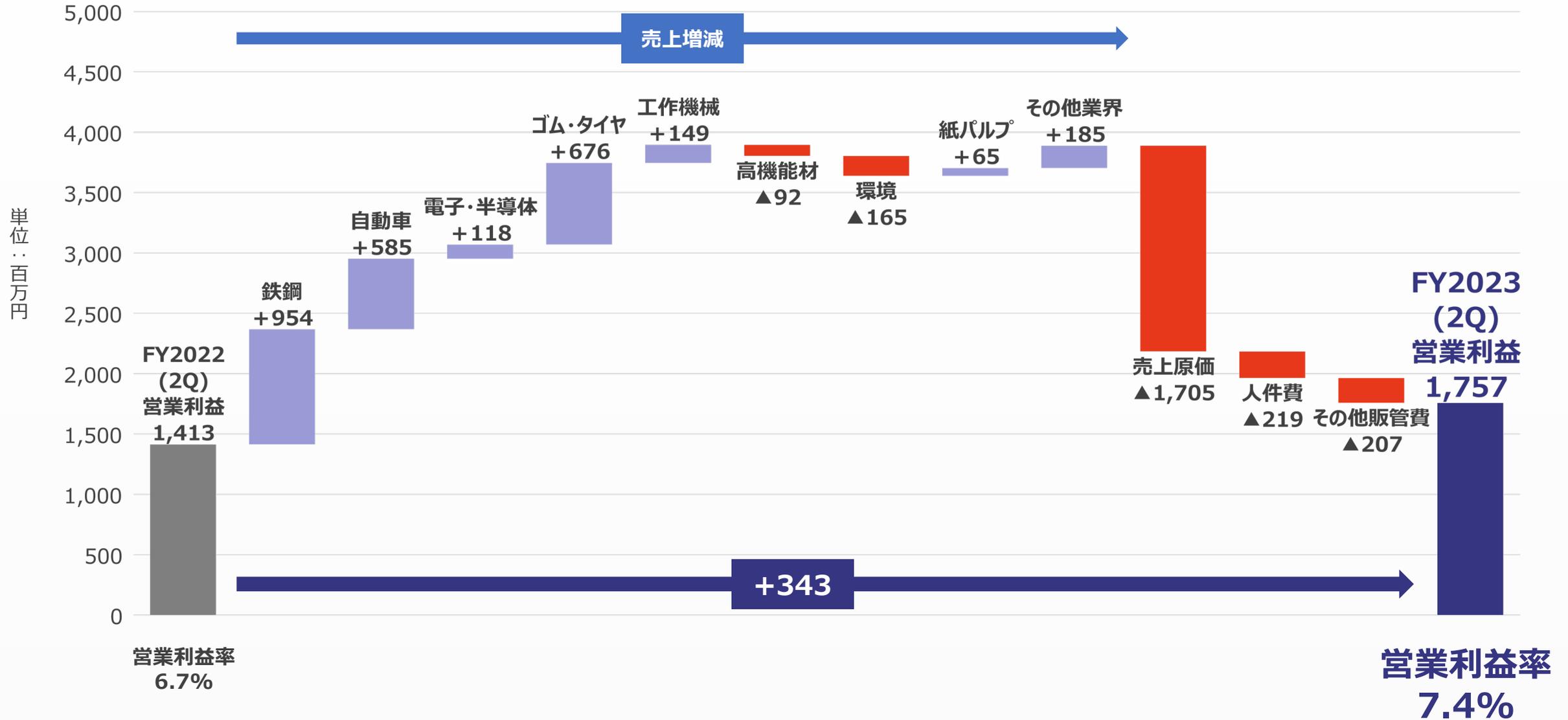
(単位：百万円)	FY2022 (2Q)	FY2023 (2Q)	増減額	増減率 (%)	構成比
売上高	21,179	23,656	+2,476	+11.7%	100.0%
売上総利益	5,272	6,043	+770	+14.6%	25.5%
販管費	3,859	4,286	+426	+11.1%	18.1%
営業利益	1,413	1,757	+343	+24.3%	7.4%
経常利益	1,734	2,031	+297	+17.1%	8.6%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,176	1,419	+243	+20.7%	6.0%

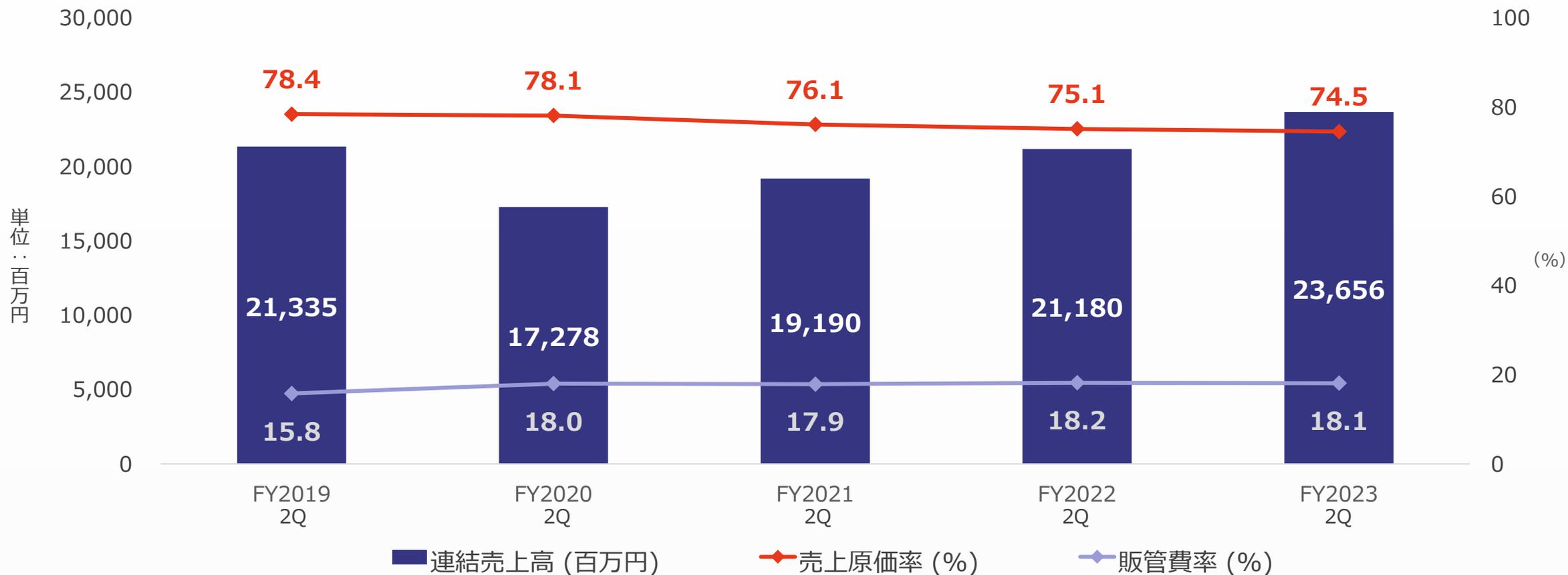
ボリュームが大きい鉄鋼・自動車が2ケタ伸長
 ゴム・タイヤも売上を大きく伸ばすなど、主要5セグメント全て前期同期比超え

単位：百万円	FY2022 2Q	FY2023 2Q	前年同期比
鉄 鋼	5,948	6,903	+16.1%
自動車	3,991	4,576	+14.7%
電子・半導体	3,261	3,380	+3.6%
ゴム・タイヤ	1,243	1,919	+54.4%
工作機械	1,212	1,361	+12.3%
高機能材	1,098	1,005	△8.4%
環 境	1,147	981	△14.5%
紙パルプ	378	443	+17.3%
その他	2,899	3,084	+6.4%



営業利益増減要因





- 売上原価率が前年同期比「減」 ▶ 利益率の高い「※オリジナル品」の売上割合が増加したため
- 販管費率が前年同期比「減」 ▶ 売上高の増加率ほど人件費が増えなかったため

※当社グループのみから提供できる商品・製品・サービスまたはその組み合わせのこと

- 業績好調により売上債権、仕入債務、未払法人税等がそれぞれ増加
- 配当金支払額、投資の増加により現預金が減少

(単位：百万円)	2023年3月末	2023年9月末	増減額	主な増減理由・備考
流動資産	29,009	30,019	+ 1,010	売上債権 +15.6億円、棚卸資産 +5.1億円、現預金 △10.3億円
（有形固定資産）	3,611	3,663	+ 52	
（無形固定資産）	365	381	+ 15	
（投資その他の資産）	4,455	5,002	+ 547	投資有価証券 +5.6億円
固定資産	8,432	9,048	+ 615	
総資産	37,442	39,067	+ 1,625	
（流動負債）	14,397	14,751	+ 354	仕入債務 +1.7億円、未払法人税等 +1.8億円
（固定負債）	1,360	1,396	+ 35	
負債	15,757	16,147	+ 389	
（株主資本）	20,303	21,056	+ 753	利益剰余金 +7.3億円
（その他の包括利益累計額）	974	1,416	+ 441	その他有価証券評価差額金 +3.0億円、為替換算調整勘定 +1.3億円
（非支配株主持分）	406	447	+ 40	
純資産	21,684	22,920	+ 1,235	
負債・純資産	37,442	39,067	+ 1,625	

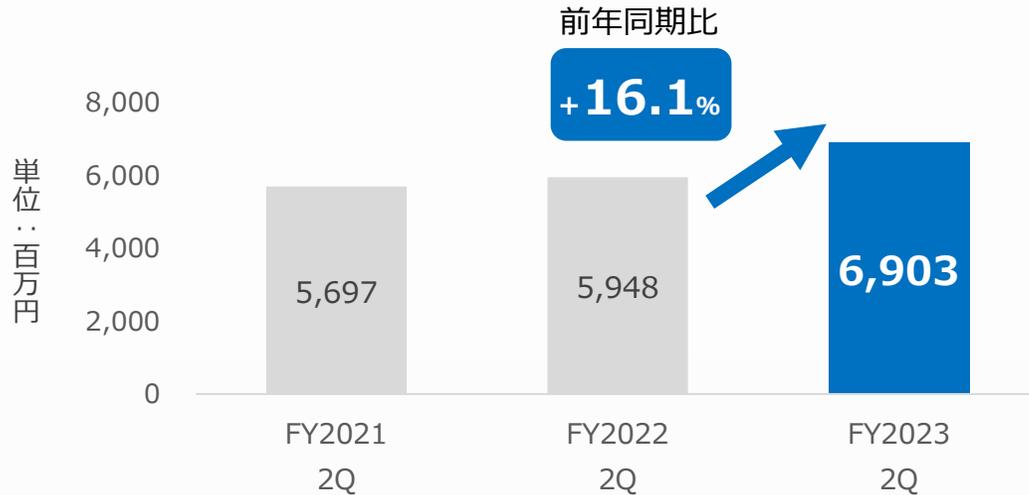
- 9月末日が休日のため、売掛金回収が10月に流れた影響で、営業CFがマイナスとなった（営業CF影響額：約5億円）
- 政策保有株式を一部売却（投資CF影響額：約2億円）
- 配当金支払額や投資の増加によりキャッシュアウトは増えているが、現時点では自己資金でまかなっている状況

(単位：百万円)	2022年度 第2Q	2023年度 第2Q実績	増減額
営業キャッシュ・フロー	▲139	▲246	▲107
投資キャッシュ・フロー	▲1,203	▲155	+1,048
フリー・キャッシュ・フロー	▲1,342	▲401	+940
財務キャッシュ・フロー	▲415	▲607	▲192
換算差額等	83	54	▲29
現預金等の増減額	▲1,674	▲954	+719
現預金等の期首残高	8,195	7,693	▲501
現預金等の期末残高	6,521	6,738	+217

鉄鋼

設備更新や増設・大型案件を獲得し
過去最高（FY2019）に迫る売上

売上高推移



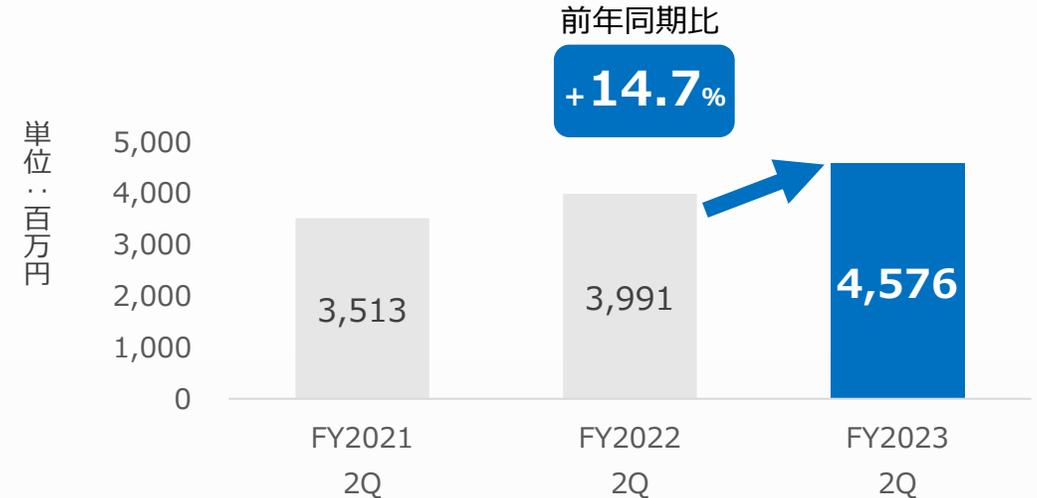
要因

粗鋼生産量の大きな影響を受けない整備部門への営業活動に注力し、既存設備の更新や増設、保全分野への深耕で大型案件を受注。

自動車

引き続き電池・モーター生産設備関連の売上が好調
第2Q時点では過去最高の売上で推移

売上高推移



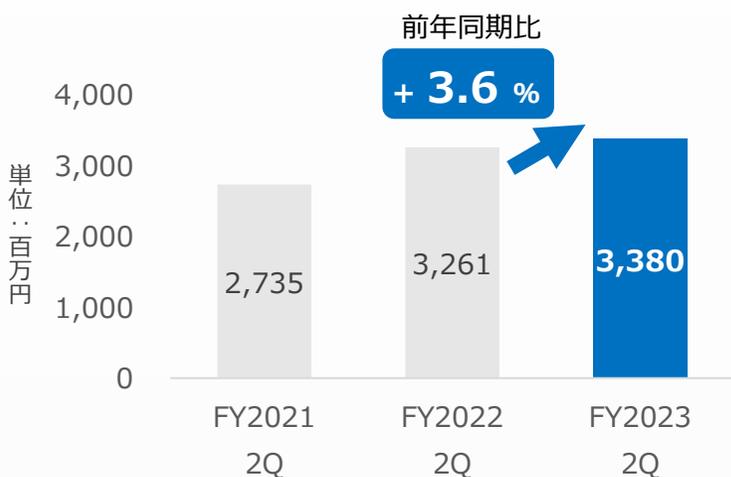
要因

CASE市場で注目される電池・モーター分野への営業に引き続き注力し、国内外の電池製造部門への部材販売や、当社専売仕入品であるインバーターの売上が好調

電子・半導体

自社製品が好調
過去最高だった前年同期を更新

売上高推移



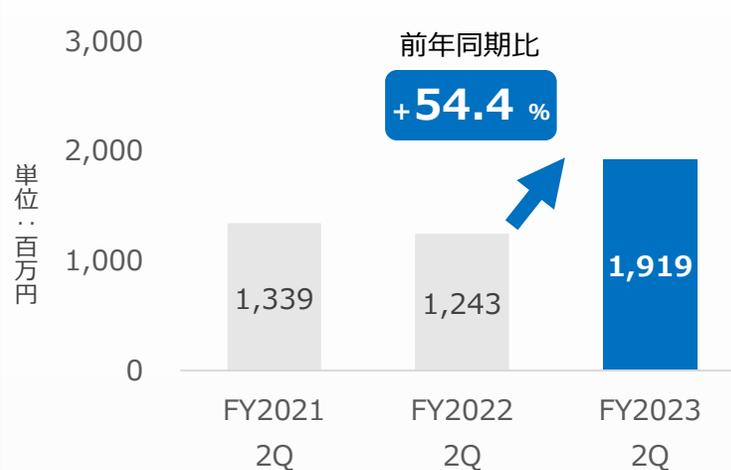
要因

得意とする修理・再生ビジネスに加え、幅広い工程に営業活動。当社オリジナル品の精密洗浄装置などの販売が増加。

ゴム・タイヤ

設備投資の活況などにより
全セグメント中、前年同期比で
一番大きく伸長

売上高推移



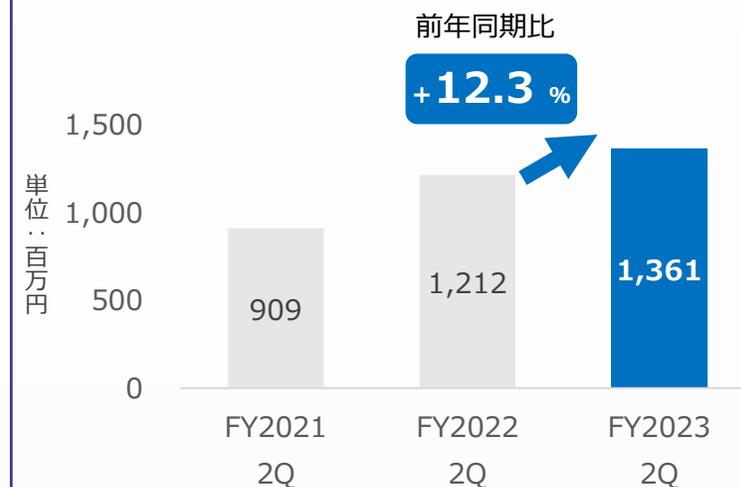
要因

設備投資や開発案件のフォローに注力。当社グループ会社製品のバルブが国内外問わず好調。装置部品の更新案件も受注した。

工作機械

加工時の冷却・潤滑に用いる
クーラント関連の売上が伸び
前年同期比で二桁成長

売上高推移



要因

クーラント装置メーカー向けにポンプ類の販売を増加させたほか、クーラント浄化システムの受注にも成功した。

3

2024年3月期 通期業績予想

最終年度を迎える中期経営計画の集大成として
売上・営業利益・経常利益は2期連続の最高更新を目指す

単位：百万円	FY2022	FY2023 予想	増減額	増減率	構成比
売上高	45,223	47,500	+2,277	+5.0%	100.0%
売上総利益	11,488	12,010	+522	+4.5%	25.3%
販管費	8,162	8,450	+288	+3.5%	17.8%
営業利益	3,326	3,560	+234	+7.0%	7.5%
経常利益	3,748	3,860	+112	+2.9%	8.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,763	2,690	▲73	△2.6%	5.7%

配当・配当性向 推移



配当性向

FY2022より
連結 **40%**

配当利回り

2023年11月24日(金)終値計算
3.96%

株主優待

割当基準日	3月31日
優待内容	クオカード1,000円分 (100株以上300株未満)
	クオカード2,000円分 (300株以上500株未満)
	クオカード3,000円分 (500株以上1,000株未満)
	クオカード4,000円分 (1,000株以上10,000株未満)
	クオカード10,000円分 (10,000株以上)

4

成長戦略（長期経営計画とトピック）

ビジョン

リックグループは、“販売・技術・製造・サービスの高度な融合とパートナーとの“協創”により、世界の産業界の課題解決のためのソリューションを提供します。

LV2030定量目標

連結売上高

700 億円

FY2022=452億円

連結営業利益

56 億円

FY2022=33億円

達成のため
4つの軸

1. ビジネス領域

- 現状の業界・業種 (600億円)
- 成長分野 (100億円)
- 海外 (700億円のうち140億円)

2. 収益性

- 営業利益率 8%以上
- ROE11%以上
- オリジナル品比率55%以上

3. 人材・組織

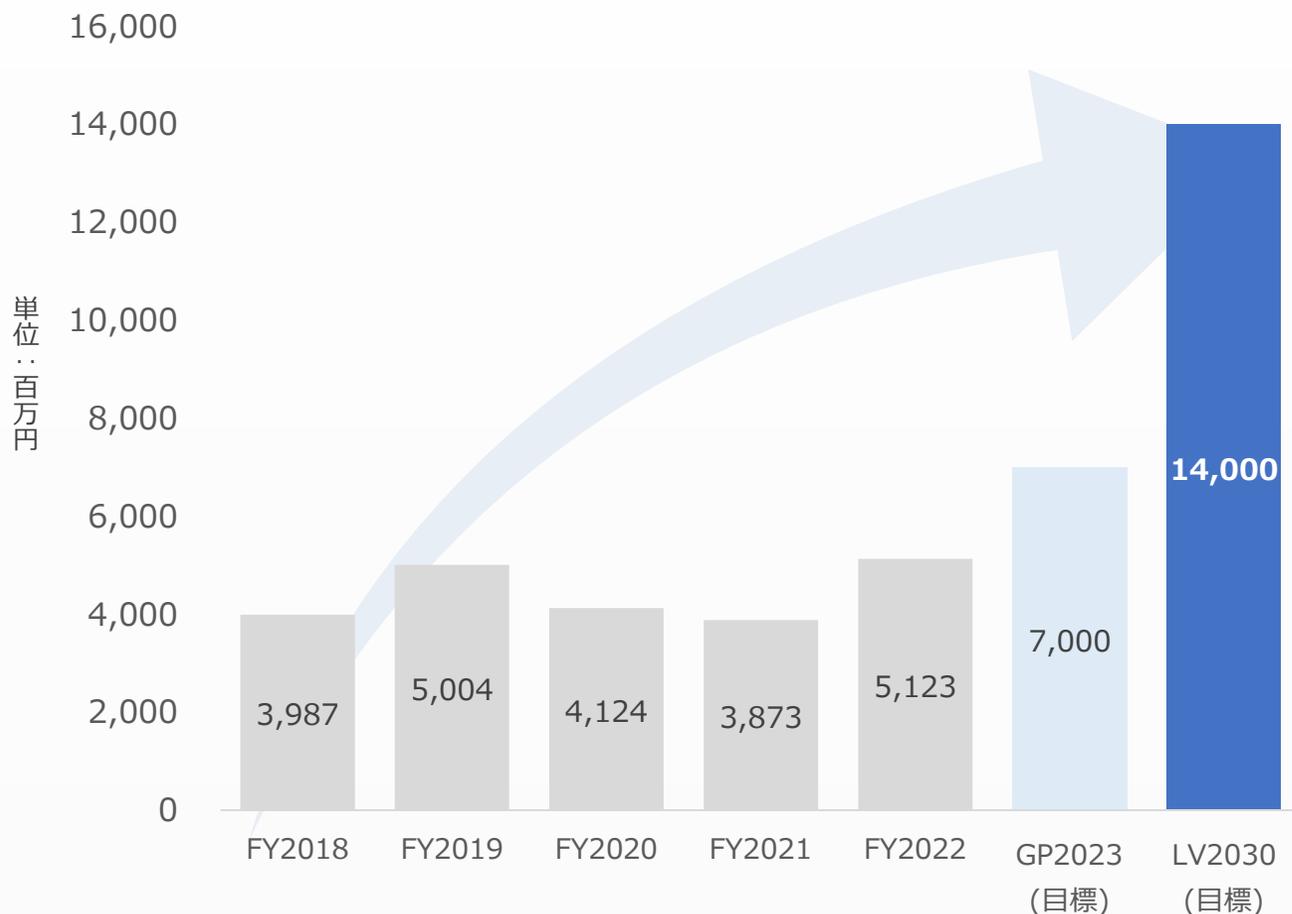
- ライフ・ワーク・バランスの充実
- RIXing Action を実践できる人材の育成と定着
- 社内外 協創 を実現する組織の構築

4. ステークホルダーリレーションズ

- 当社ビジネスを通じた社会貢献
- ステークホルダーとのコミュニケーションの活性化

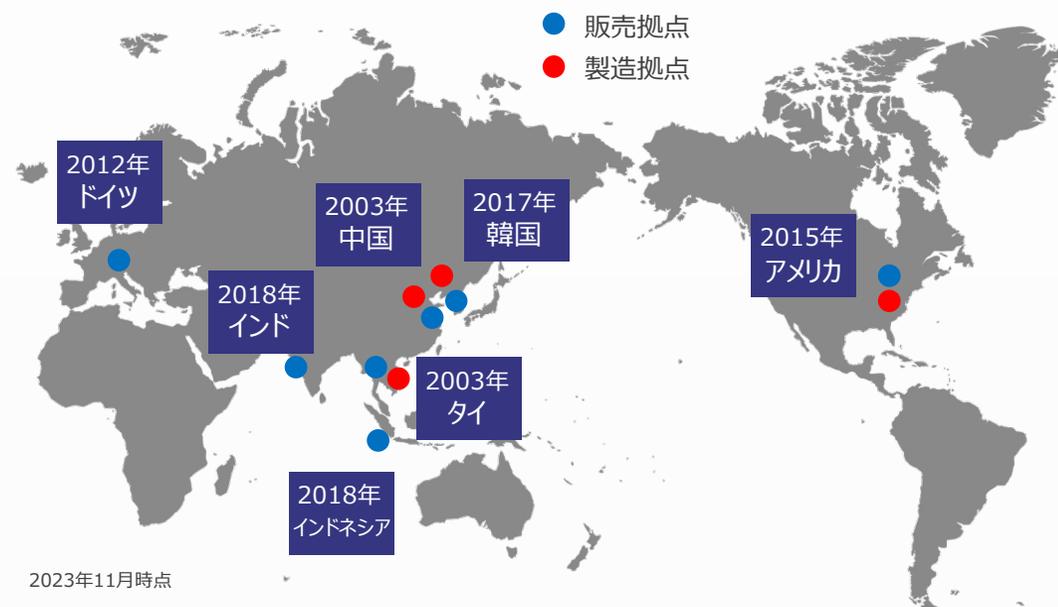
海外売上は、2030年度に現在の約2.7倍となる140億円を目指す

当社海外売上推移と目標



当社海外拠点

- 日系企業が海外に進出するタイミングで当社も拠点を展開し、顧客密着営業
- 日系企業の顧客が多い中、現地企業の開拓にも注力



当社海外売上比率=11.3% (2022年度)
内訳) 中国=4.5% / 北米=2.1% / タイ=1.6% / 欧州=1.2% / インド=0.5% / その他アジア=1.3%

産業のさらなる成長が見込まれるインドへの工場建設を決定 自社製品製造を強化し、海外売上の拡大を図る

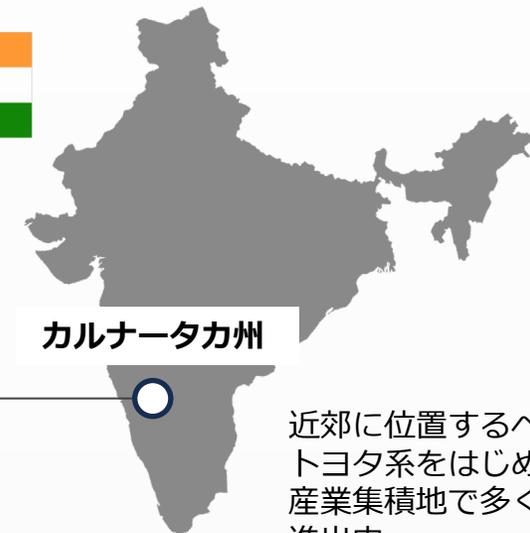
名称	RIX INDIA MANUFACTURING PRIVATE LIMITED（仮称）
所在地	インド カルナータカ州 VASANTHA NARASAPURA 日本工業団地(JIT)（予定）
事業内容	自社製品（ロータリージョイント、オイルスキマー）の製造
資本金	3億7千万ルピー（約6億6千万円相当）（予定）
大株主及び持株比率	リックス株式会社 99.0% RIX INDIA TRADING & SERVICE PVT. LTD. 1.0%
当社インド拠点	営業拠点（ムンバイ/2018年設立）に次ぎ2拠点目



ロータリージョイント



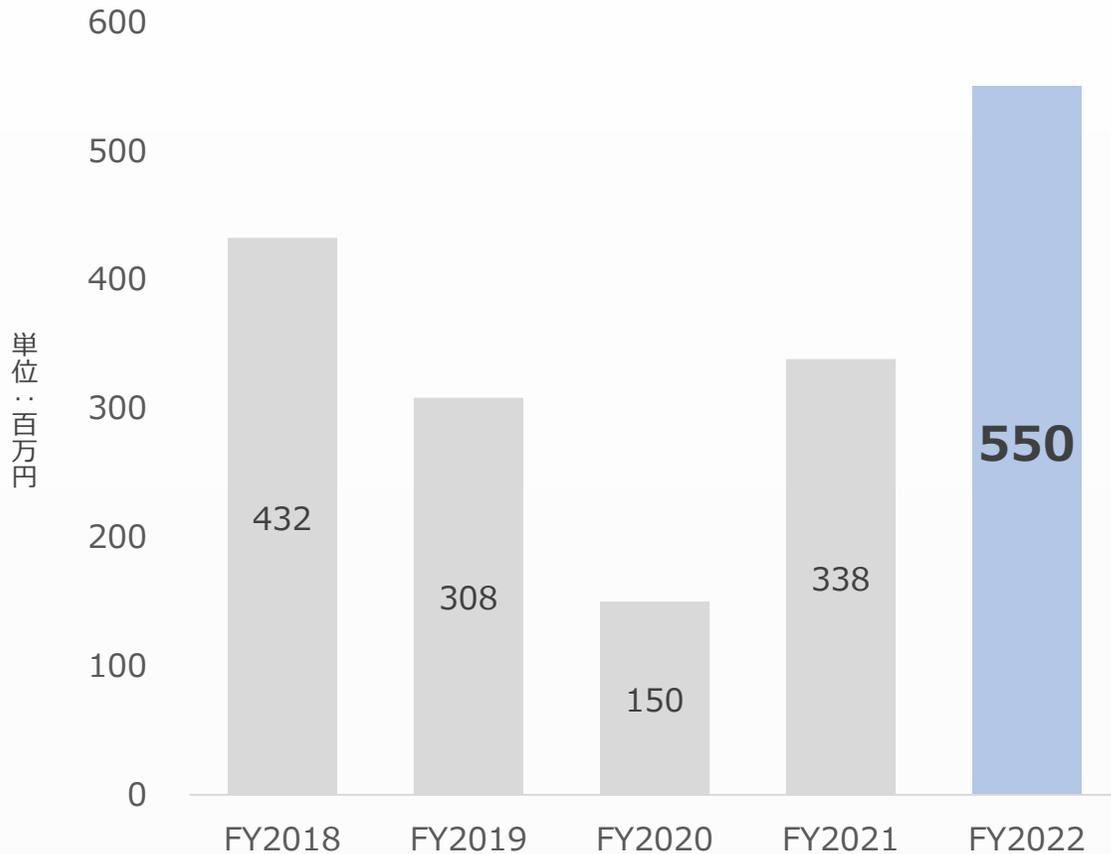
オイルスキマー



カルナータカ州

近郊に位置するベンガルールはトヨタ系をはじめとする自動車産業集積地で多くの日系企業が進出中

当社インド拠点の売上高推移



インド顧客の業界



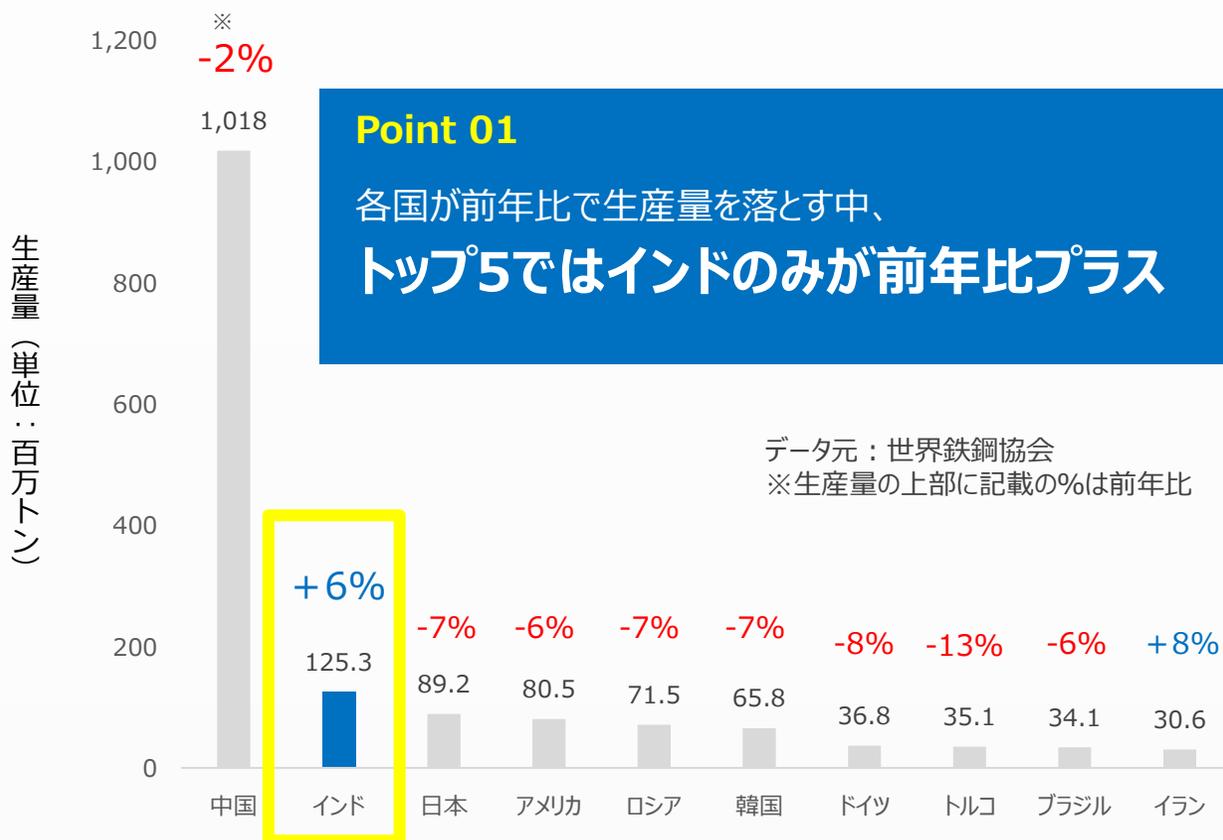
%は2022年度の売上総利益構成

ものづくりの工場に必要な
装置・部品などを販売
(自社製品+仕入商品)



- インドの粗鋼生産量・鉄鋼需要は**世界2位**（2022年度）
- 今後も市場拡大を続け、**2050年には中国を超え世界トップ**になる見込み
- 当社としてもビジネスチャンス拡大の余地十分

2022年度 世界粗鋼生産量（トップ10）



Point 01

各国が前年比で生産量を落とす中、
トップ5ではインドのみが前年比プラス

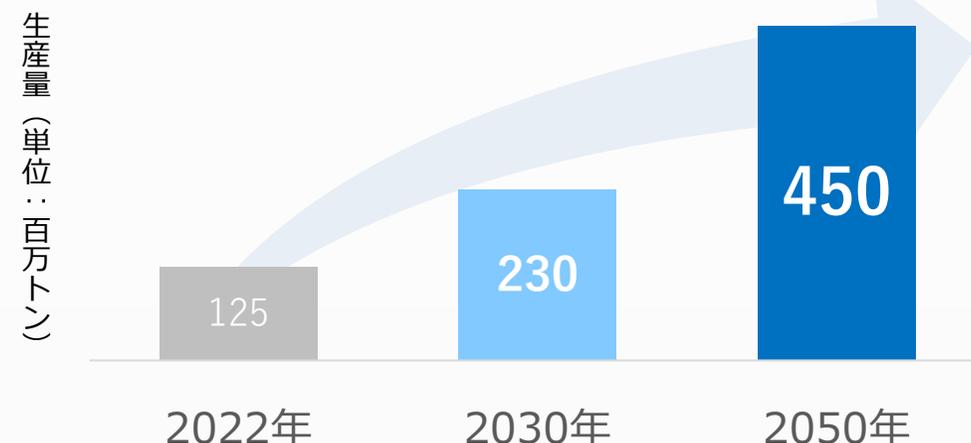
インドの粗鋼生産量 成長予測

Point 02

2050年度には現在の約3.6倍の粗鋼生産量に拡大
中国を抜き世界トップになる見込み

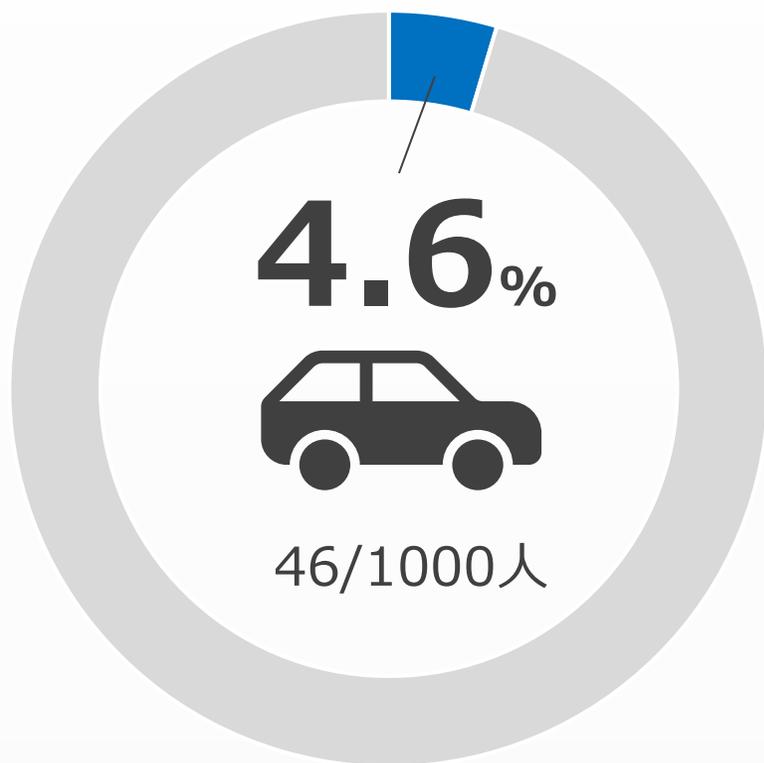
（予想：インド鉄鋼協会）

データ元：インド鉄鋼協会



- インドの自動車保有率は世界基準では低水準で市場拡大の余地十分
- 販売台数は増加傾向で2022年度には日本を抜き3位に **2030年度には現在の約2倍**を見込む
- 当社としてもビジネスチャンス拡大の余地は十分

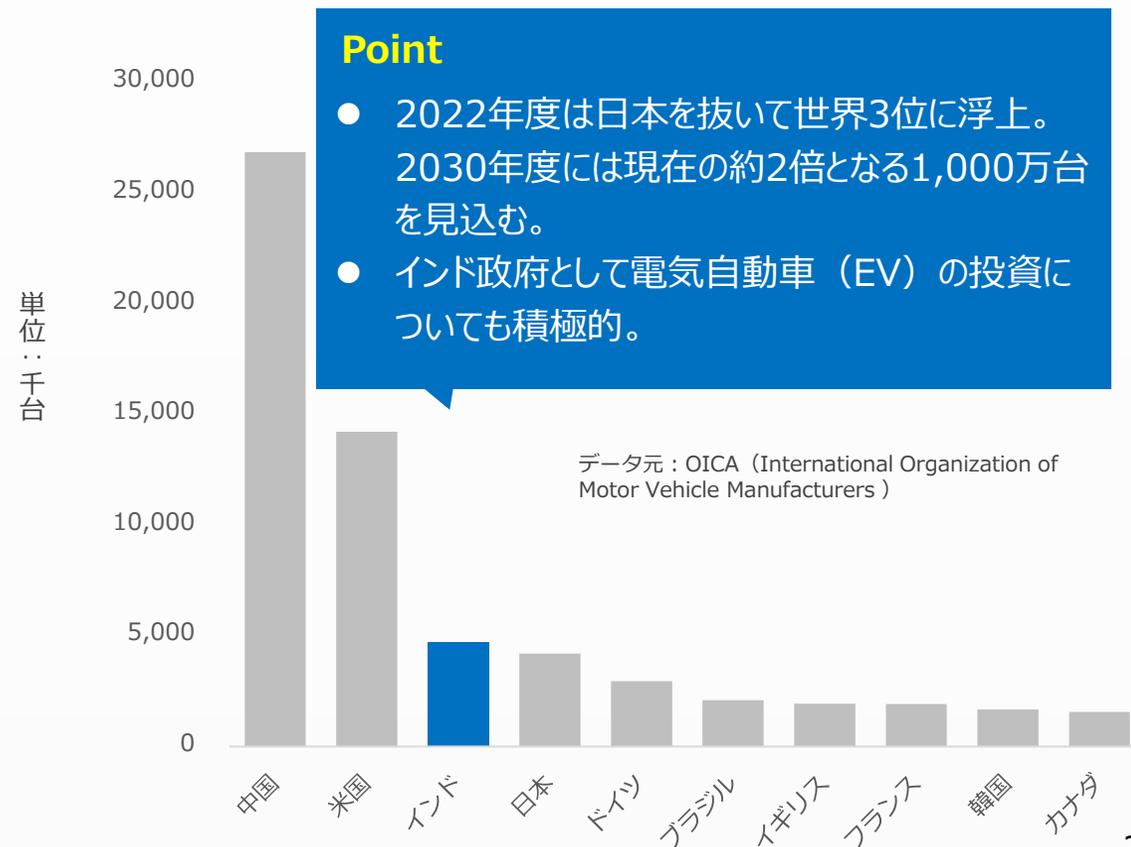
インドの1000人あたり自動車保有率



比較：日本=78%、韓国=49%、中国=22%

データ元：FOURIN アジア自動車調査月報

2022年度 世界の自動車販売台数



インドに拠点を置く工作機械メーカーに当社製ロータリージョイントを販売

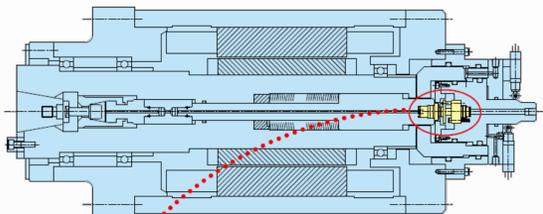
工作機械とは

金属や樹脂を、切断・穴あけ・折り曲げなど加工するマシン

スピンドル（主軸）に内蔵される当社製ロータリージョイント

工作機械には、対象物を削るドリルを回転させる「スピンドル」という部位があり、その内部に当社製ロータリージョイントが内蔵

■スピンドル(主軸) 拡大図

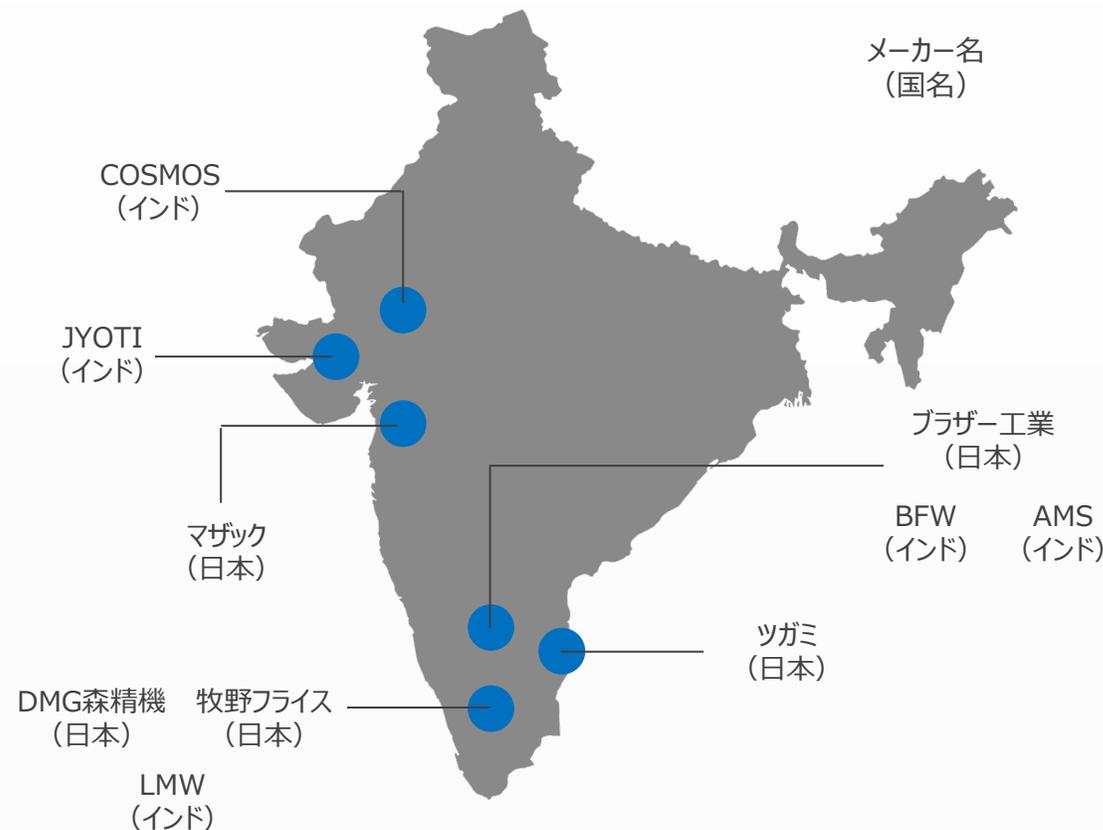


当社製 ロータリージョイント

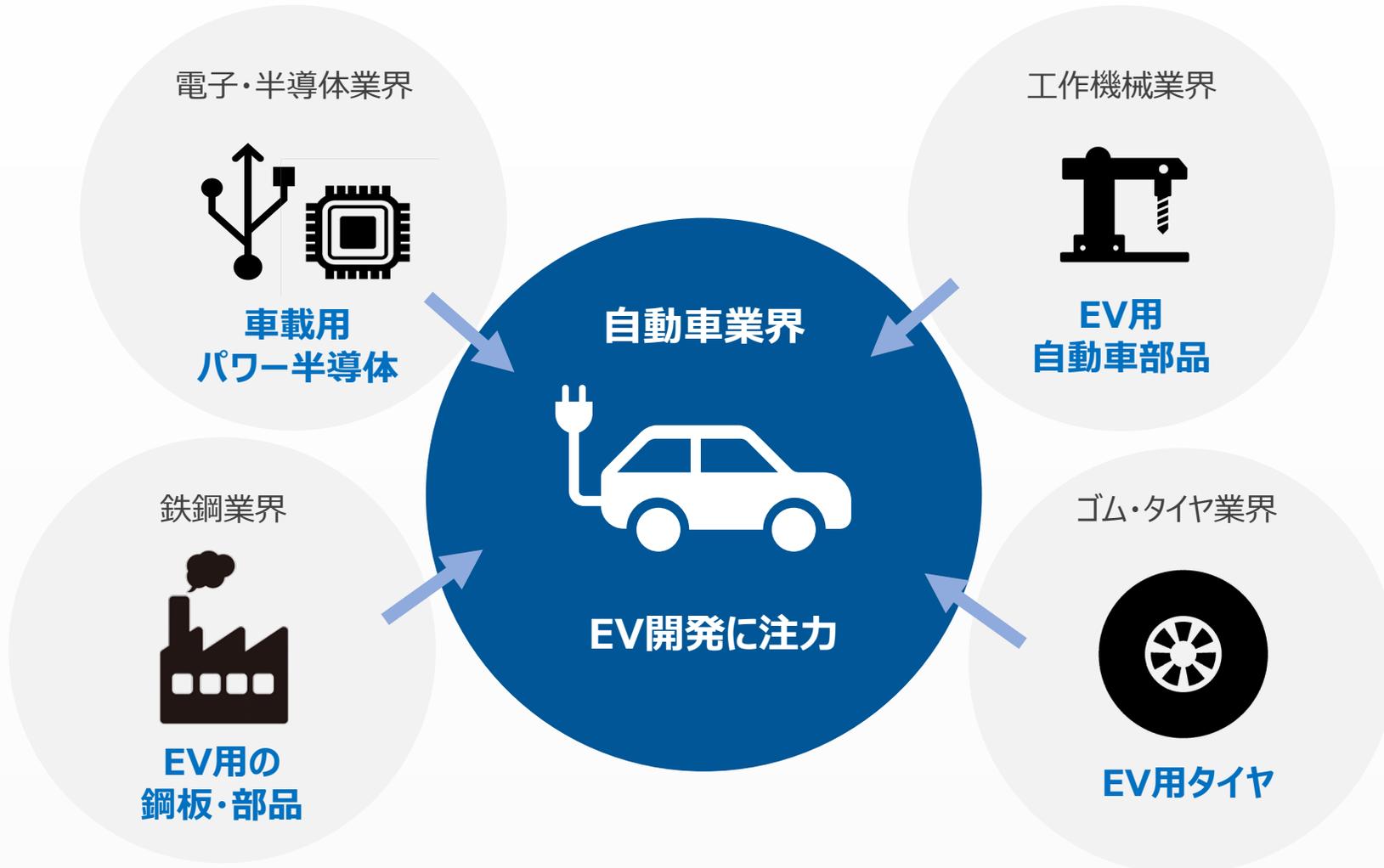
**特許取得するなど
高い技術力を保有**

販売

日系の工作機械メーカーがインドに進出・工場建設中
地場メーカーも続々と新工場を建設



EV開発に関する各業界の取り組み



Point 01

自動車業界がEV開発に注力
することで他業界も追従

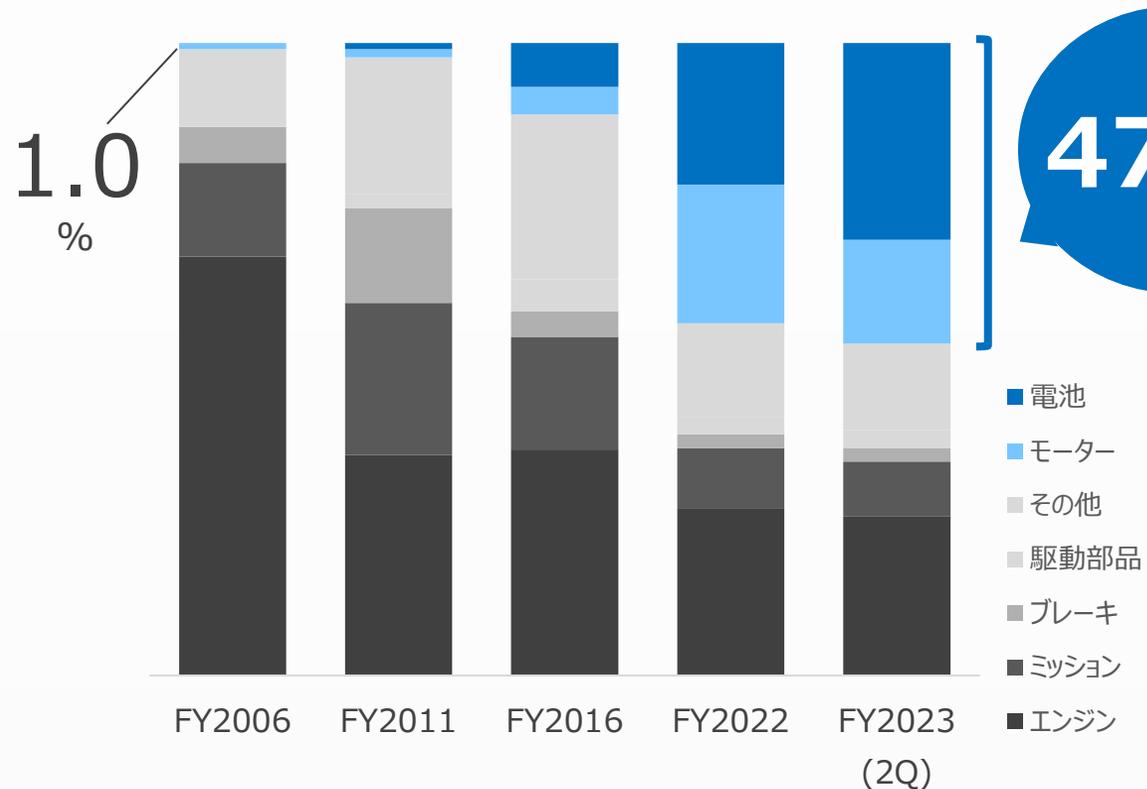
Point 02

当社は自動車業界だけでなく
EVに関わる様々な業界に機器・
部品・ソリューションなどを提供

対自動車業界「電池・モーター関連」の売上伸長

対自動車業界における当社売上構成比推移

全体的な売上額は増加させつつEV・HEVの生産ラインに関わる「電池・モーター関連」の売上を拡大



EV・HEV生産ライン向けの自社製品

商社として仕入れた商品を販売するだけでなくEV・HEVの生産ライン向けに自社製品も開発・販売



※いずれも2022年度販売開始

開発 経緯・目的

- 当社は**流体関連機器の技術やノウハウを創業115年で培ってきた**。
- 海水に強いFRPポンプや、ポンプを制御するインバーター、フィルターなど、**陸上養殖設備に関する機器を当社グループ内で取り扱っている**。
- 上記を結集することで、**漁獲量減少、赤潮発生、食料不足などの社会課題を解決**するための陸上養殖設備の開発を推進する。



▲ 開発中の陸上養殖設備



▲ ▼ 実証実験の設備で養殖中の魚





第2Qまでは過去最高の業績で推移。通期でも過去最高の更新を予想



自社製品の製造工場をインドに設立決定。海外売上拡大を図る。



EV・HEV関連で売上拡大。陸上養殖設備など成長分野にも挑戦。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。

当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。